

浦島伝説

平成31年2月4日

第34号



自分で創る 自分の進路!

自分の成長は、ひとりで生まれるものではありません。自分で考えて、自分自身を高めていかない限り、身体は大きくなって、心の豊かな大人にはなれません。自分の進路は、いやがおうでも自分自身で決めなくてはなりません。中には「進路なんて、成績で決まること。自分の力ではどうにもならない。」などと言う人がいるかもしれませんが、しかし、この考えは間違っています。世界にたった一人しかいない自分は、自分自身で大切に育てていかなければなりません。成績を左右するのも自分の毎日の努力なのです。将来自分は何になりたいのか、どんな仕事について、どんな生き方をしていくのか…。今の生活や友人関係、親子、先生との関係の中でしっかりと考え、自分から求めていかなければ、突然いい生き方や、すばらしい進路が見つかるものではありません。

中学生時代に考えた職業に就く人はあまりいないかもしれませんが、しかし、大切なのは、その時々自分の将来、未来を考えて今の自分を大切に、自分の可能性をできるだけ押し広げていくことなのです。その過程で、その人の能力や可能性が一つ一つ広がっていき、強くたくましい人柄、本当の優しさが身に付いていくのです。その結果として、自分の生き方、進路を切り開いていくことにつながっていくのではないのでしょうか。

3年生はもちろん、1・2年生も12日には学習の診断があります。今、やるべきことを考え、着実に前進していきましょう。

今 坂村真民

大切なのは
かつてでもなく
これからでもない
一呼吸の
一呼吸の
今である

新聞で紹介されました

~本当においしい詫中の給食~



詫中の食育の取組が、1月の新聞紙上に掲載されました。

1月29日(火)に地元詫間町志々島の郷土料理「茶がゆ」が、給食で振る舞われたという内容の記事です。

「茶がゆ」は昔、貴重な米をかさ増しして食べる庶民の知恵が生み出した料理です。

栄養士さんや調理員さんたちが、生徒に食べやすいようにと試作を繰り返し、昆布だしを混ぜたり、塩としょうゆで味を調えたりして、昔ながらの作り方に愛情とアレンジを加え、「詫中風茶がゆ」が誕生しました。

生徒たちは、「茶の風味やサツマイモの甘みが病みつきになりそう」と笑顔でおいしそうにいただけていました。



「茶がゆ」おいしい

* 志々島の郷土料理

本紙の19年前特集 契機

三豊市詫間町の詫間中学校(久保田員生校長)の給食で29日、詫間町の郷土料理「茶がゆ」が振る舞われた。茶がゆの歴史的背景を学んだ生徒は、初めて食べる味に舌を打ちながら郷土の食文化について理解を深めた。丸岡正副教諭(右)が茶がゆを取り上げた特集「21世紀を築き上げた茶がゆ」を手に、丸岡正副教諭(右)が茶がゆの歴史を語り、生徒たちも笑顔で食べている。

志々島の郷土料理「茶がゆ」に舌鼓を打つ生徒たち—三豊市詫間町、詫間中

詫間中、給食で提供